

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	合資会社ケアスタッフサービス 児童デイサービス みかん園田第二		
○保護者評価実施期間	2024年11月25日		～ 2024年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2024年11月25日		～ 2024年12月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	身辺自立に向けた取り組みに注力してる。	身辺自立週間を設けて歯みがきやSST等、個別課題を実施している。保護者とのモニタリングや日々のこまめな聞き取りを行い、保護者のニーズや現状の課題などを決定している。個別取り出しの時間中、他の子供たちが静かに過ごせる練習も兼ねている。	その日の天候や体調、学校での出来事、メンバーなどにより細かく課題内容を変動している。職員間で常に現状の子供たちがどであるかを話し合い、達成への進捗状況などを共有し、課題を細かく更新している。
2	多種多様のおでかけ	活動空間を十分に取る事ができず、体を動かしたり外遊びが好きな子供が多い為、土曜、祝日、長期休みにはおでかけする機会を多く設けている。	取組体験、工場見学、買い物学習、電車移動等、子供たちに様々な経験をしてもらう為、外出先や経験内容が固定化されないよう、職員間で話し合いを行い、行き先と内容を決定している。例年行事の活動や同じ活動の中でも去年や前回とどのように子供たちの変化があったのかを比較し支援につなげている。
3	専門職員による体幹トレーニング	専門的知識を受講、資格習得した職員を主体に、体の基礎となる体幹を鍛える為の活動を多く設定している。各々の特性や進捗状況に応じて内容を更新している。	様々な道具や音楽等も取り入れ、子どもたちが楽しめるようまた無理のないように進めている。職員間で違う視点を持ち、その日の進捗を話し合い、次の活動内容につなげるようにしている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	音への刺激を完全にシャットアウトできる空間確保が不十分	活動空間内におけるパーティション設置はしている。また別室に課題室を設けているが、完全に音をシャットアウトはできておらず、音への刺激に弱い子について配慮が不十分であること。	普段から子どもたちが安心して静かに過ごせる環境を整える為にできることを日々、職員間で共有する。気分転換をはかる為に個別外出ができる時は対応し、また子供の状況に応じてその日の活動内容を柔軟に変更していく。
2	マンションの2階に位置する。	避難の際、階段がある為、避難に時間を要する場合がある。バリアフリー化が不十分であること。	階段の上り下りの際は職員の配置に注意し、また雨の日など階段が滑る際は一人ずつゆっくりと下りるようにしている。避難訓練は月1回以上実施しており、子供たちや職員を含めた危機意識を高めるようにしてる。階段で危険がない様に特に意識し、災害クイズ形式にして楽しめる時間も作っている。
3	活動空間の広さが不十分。	テーブルの固定や、パーティションの設置をしている為、活動スペースが限られる。	身体の発達の為にも外で十分に動けるお出かけ設定を多く設け、また室内では場所を取らなくても体を動かす事の出来る体幹トレーニングやストレッチ等を取り入れている。物を増やさないようにスッキリとした刺激の少ない空間を保つようにし、安心して静かに過ごしたり、人とぶつからないように過ごすパーソナルスペースを意識する練習にもつなげている。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 合資会社ケアスタッフサービス 児童デイサービス みかん園田第二

公表日 2025年2月28日

利用児童数 18

回収数 12

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12				特になし	室内は狭く十分なスペースの確保は難しいため今後も時間があるときには外での活動を継続して行っていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12				特になし	今後も適切な人数の確保を行っていく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11			1	特になし	階段の上り下りの際には職員の配置に注意している。クールダウン用やアレルギー対策のパーティションを設置している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	12				特になし	毎日、床、おもちゃ、洗面スペース等の手に触れる箇所を消毒、清掃、換気している。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12				特になし	今後も積極的に実施していきたい。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12				特になし	今後も積極的に実施していきたい。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11	1			特になし	定期的ミーティングや日々の気づきなど日常的な共有を継続していく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	1			特になし	多方面からのアセスメントを心がけ作成していきたい。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12				特になし	モニタリングや日々変動していく様子を考慮し一人ひとりに合わせた計画が作れるよう職員間で意見を出し合いそれをまとめる形で作成していきたい。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12				特になし	担当職員の得意を生かし、季節や子どもたち各々の課題に合わせた内容を職員間で話し合って決定している。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	1	1	4	特に必要と思わない。	地域の他のこどもとの直接的な交流は持っていないが、地域のお祭りやイベントには参加している。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12				特になし	今後も実施していきたい。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12				特になし	今後も実施していきたい。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12				特になし	相談等については今後も引き続き実施していきたい。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	9	1	1	1	特になし	送迎時に毎回、様子をお伝えする事、気付いた事等こまめな連絡を日々継続していく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	2			特になし	定期的にモニタリングを行っている。保護者のニーズや心配事等をこまめに聞き取るようにしていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12				特になし	引き続き実施していきたい。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	3	1		特になし	年に1度、親子交流会を実施し、保護者同士、兄弟同士の交流機会を設けている。より参加しやすい内容を検討していきたい。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12				特になし	引き続き実施していきたい。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12				特になし	引き続き実施していきたい。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12				特になし	月に一度、活動風景の写真を添付した通信を発行し、ブログを1か月に1~2回アップし、活動概要や行事予定をわかりやすく発信している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12				特になし	引き続き実施していきたい。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12				特になし	引き続き実施していきたい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12				特になし	引き続き実施していきたい。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12				特になし	引き続き実施していきたい。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11			1	特になし	緊急時のマニュアルを作成している。事故等が起こった際は社内、保護者へ速やかに共有する体制を整えている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12				特になし	安心感を持てるよう子どもたちの日々の状況や天候等も加味した活動作りを心がけていきたい。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12				特になし	今後も一人一人が楽しめる活動作りを実施していきたい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12				特になし	今後も一人一人が楽しめる活動作りを実施していきたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		合資会社ケアスタッフサービス 児童デイサービス みかん園田第二		公表日		2025年2月28日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	3	時間のある時は外での活動を心掛け体を動かせる時間を作っている。スペースの必要な集団活動では場所を広くとれるよう一人ずつ行う事も多く、待つ練習にも繋げている。	室内は狭く十分なスペースの確保は難しいため今後も時間がある時には外での活動を継続して行っていく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	4	利用者数に合わせて適切な人数を配置、専門加配も配置できている。	利用者のその日の状態によっては人員不足を感じるため、これまでの状況を加味した適切な人数確保を行っていく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	5	視覚的に刺激になりやすい展示物や装飾を少なくし、活動に集中しやすい環境を作っている。利用者の写真や文字を使用し構造化を図っている。	階段の上り下りの際は危機意識を高め注意を継続していく。配慮が適切な環境作りに努めていく。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	2	毎日清掃、床、テーブル等ハイター消毒を行っており、冬場は加湿器等も使用し、換気も行っている。	手洗いうがいの練習、感染症対策を継続し行っていく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	クールダウンやアレルギー対応等、個別に対応が必要な場合は、パーティションや別室で対応している。	音からの刺激に対するバリアフリー化を強める為、状況に応じて、個別外出も検討していく。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	4	その日毎や月毎にミーティングを行い個別目標を決め、達成に向けた意見交換をしその後振り返りを行う。	意見を出しやすい環境を整え、気づいたことやヒヤリハットなど随時、確認していく。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		評価結果、また保護者からのご要望等は随時、SNSや定期会議でも職員間で共有している。	現状を維持していく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	5	ミーティング、またはその日の個々の気づきにおいて職員の意見等を出し合う機会を設け、共有し振り返りを行っている。	意見を共有した後の改善に向けた内容を具体的に立案し、取り組んでいく。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4	現在行っておりません。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	定期的に社内、店舗内での研修、勉強会を行っている。意見を出し合い業務改善に努めている。	座学だけではなくロールプレイの機会も増やし実践的にすすめていけるようにする。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	2	要望に沿った、また現状で課題と考えられる事を職員間で共有している。	引き続き担当職員だけでなく進捗状況をチームで把握していく。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	2	定期的なアセスメントを行いご本人や保護者様のご要望に沿った支援内容を確認しながら説明をし、多方面からの意見を取り入れ作成している。	多方面からのアセスメントを心がけ作成していきたい。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	2	ミーティング、またはその日の個々の気づきにおいて職員の意見等を出し合う機会を設け、共有し振り返りを行っている。	一人ひとりに合わせた計画が作れるよう職員間で意見を出し合いそれをまとめる形で作成していきたい。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	2	作成できた段階で職員へ情報共有をしている。	作成できた段階で職員へ情報共有をしている。全体ミーティング等で改めて共有する。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	事業所内共通様式を使用し、その記録等を参考にしている。	日常的な観察や対話を通して、子どもの様子を多角的に捉えるようにする。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	2	モニタリングを元に職員からの意見を出し合い提供している。	日常的な観察や対話を通して、子どもの様子を多角的に捉えるようにする。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	2	全職員で担当を振り分け、意見を出し合い、各職員の得意を生かした内容のプログラム作りに努めている。	引き続き担当職員だけでなく進捗状況をチームで把握していく。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		1か月ごとにプログラムを作成し、季節や個別課題に沿った内容を考慮し、人数や天候等をみながら臨機応変に対応している。	収穫体験や季節行事などその時にしか取り組めないプログラムを多用し固定化されない様工夫する。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	2	多様な体験ができるよう外出等を工夫している。個別課題週間も設け、集団活動との偏りがない様にしている。	集団活動の中にも個別課題へのきっかけが生み出せるよう観察眼を持つようにしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	4	事前に活動に内容の共有を行いより良い活動になるように調整しています。	共有を強化してより連携をより強化します。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	5	職員間で活動の振り返りを行い、次回の動きなど確認しています。	確認し決定した内容を職員間で共有し次回活動時に備えていく。そのために文言などに残り誰でも閲覧出来るようにする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	2	支援について話し合い時にはご利用者様のご家族に確認を行い、より良い支援を目指しています。	店舗内で解決できない事等がある場合は解決が出来る他機関とのパイプを作って行く必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1	保護者に寄り添いモニタリングを行い、より良い支援につなげられるように職員間で検討しています。	検討結果を職員に共有し、より良い計画にしていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	3	こどもの年齢や発達段階、興味関心などに合わせて、柔軟に組み合わせ活動を行っている。	職員間で「4つの基本活動」への理解を深めてより良い支援に繋げていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	1	常に児童自身が選択して行けるように根気強く見守りを中心に支援を行っている。	支援の柔軟性を上げるために研修等を取り入れるなど外部からの専門的な知識を取り入れる。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		出勤可能な職員が参加するようにしている。事前に保護者や他職員と課題について情報を共有した上で関係機関との打ち合わせをしている。	より良い支援につながるようにこれからも関係機関とのつながりを密にしていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	保護者を通じて主治医からの指示を確認し全体で共有している。	より良い支援につながるようにこれからも体制を整えて行く。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		学校の行事予定等は学校ホームページや保護者から情報を頂いている。送迎時等のイレギュラー事項は速やかに連絡するようにしている。	今後も情報共有を密にしていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		面談時また利用開始前にも保護者や関係機関からの情報を共有するようにしている。	今後も情報共有を密にしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	1	共有出来るように情報を日頃から残り共有体制と整えている。	共有できることを職員間でしっかり共有する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	5	研修を積極的に受け入れて助言の機会を設けている。	社員が中心になる事が多いが職員全体で受けることが出来るように共有対象を広げる。又は研修後共有する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	2	地域のお祭りやイベントには参加している。	イレギュラーに弱い利用者が多い為、地域の他のこどもの直接的な交流が持てていない。利用者の発達に合わせた段階的に検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	5	協議会議等が行われる際には速やかに社員に共有し参加を促している。（必ず一人以上は参加をしている）	協議会議等が行われている際に社員のみでの共有となる事が多いので固定せず職員に全員のに機会を設けるように調整する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		日常的にSNSを介し連絡帳を送信、その毎日の利用者の様子、達成できたこと気になる事等を報告している。	子供の発達状況を日々観察し、小さな変化でも見落としがないよう子供たちと関わりを深め保護者へ発信していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	活動報告を通じて保護者から問い合わせ等を頂く場合があり、参考文献の紹介や支援内容に沿った助言をしている。	外部で家族等の参加できる研修があった場合は案内を発信しているが、その機会を増やしていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	3	資料を製作し誰でも希望があれば閲覧出来るようにしている。	定期的なミーティングを通して閲覧できる場所の確認や、質問、疑問点等を共有していく。
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1	モニタリングを中心に都度送迎時などを使いご家族との方向性を確認しています	共有事項を改めて確認し、口頭のみせず、文言を使って誰でも確認できるようにする。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	1	保護者に確認を行いながら計画を製作している。記録を都度残り改めて確認できるようにまとめて保管している。	計画の共有が出来ていないことを防ぐために計画自体を誰でも閲覧できるようにし共有を高める。	
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1	定期的なモニタリング面談に加え、日常的にSNSを介して又は送迎の際の時間にこまめに聞き取るようにしている。	毎日の様子を連絡帳にて送信しているが、目立った事に係わらず気になったことや変わった様子が少しでも見られた場合、個別に連絡をとり連携をはかるようにする。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		年に1度、親子交流会を実施し、保護者同士、兄弟同士の交流機会を設けている。	参加者が増えていけるよう、より参加しやすい内容で開催できるよう検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		保護者様のご要望や苦情があった場合は迅速に対応し共有している。	情報連絡体制をマニュアル化し周知していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		月に一度、活動風景の写真を添付した通信を発行し、保護者へ発信している。	ブログについては1か月に2〜3回アップし、活動概要や行事予定をわかりやすく発信しているが、より多く閲覧していただけるよう個別にも案内をしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報が入らないようフルネームは控え伝達するようにしている。情報ファイル保管場所は施錠している。	職員間で常に意識を高め、研修やミーティング等でも確認をしていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		送迎時にその日の様子をこまめに報告したり、モニタリングで保護者の心配事や要望などを聞き取っている。子供に合わせてイラストカードや写真、ジェスチャー等を使用している。	子供が何を求めているのか、伝えようとしているかを見逃さないよう注視していく。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4	変化に敏感な利用者が多い為、地域住民の招待には至っていないが、地域のイベント参加や子ども食堂の利用、地域清掃等は実施している。	地域活動の参加を積極的に増やしていく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		各種マニュアルを策定し、月1回の避難訓練を実施している。災害クイズとして利用者が楽しく学べる時間をプログラムに入れている。	防犯対策については実施回数がまだ少なく、今後は増やしていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		津波、火災、地震、を想定した避難訓練を月替わりで月1回実施している。利用者へは告知せず活動途中に実施し、臨機応変に対応できる力を養っている。	管理権限者、避難誘導員、情報伝達員等の役割分担をし、どの職員でも臨機応変に対応出来るように訓練を継続していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	1	通常と変わった様子はないか送迎時に毎回保護者様へ聞き取りをしている。受診結果、通院の進捗状況等をこまめに確認するようにしている。服薬有無や担当者の記録をしている。	てんかん等の状況が見られた場合には詳細記録を残すように共有していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギー児童については食事提供の前に必ず成分表記をダブルチェックし、パーティション内で食事をとるようにしている。誤食がないよう食事後も掃き掃除を徹底している。	医師の指示書を目につきやすい場所に固定し、食事の際の声掛けをまめに行い職員間の危機意識を高めていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	2	事業所だけでなく公園や買い物等で外出中の避難訓練も実施している。不審者に対する避難訓練もロールプレイで実施し職員間で意識を高めている。	イレギュラーで起こりうる災害に対して意見を出し合い様々な場面を想定した訓練を実施していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	3	月1回以上、避難訓練を実施し、連絡帳やブログで発信している。車内置き去り防止装置の設置を行っている。	災害避難場所や連絡方法等を家族等に周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットが起こった場合は直ぐに共有している。ミーティングなどで必ず再発防止に向けた意見交換の場を設け改善に努めている。	改善策が偏らないような様々な視点から意見を出し合うようにしていく。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		社内でも定期的な研修を行っている。虐待に該当する項目、内容について意見を出し合い確認合っている。	虐待に該当するかが分かりにくい細かな内容もある為、常時、意見を出し合うように心がける。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1	車内のシートベルト外しや外出時の飛び出し等、防止方法を職員間で意見を出し合い決定している。日々変動する利用者の状況に臨機応変に対応している。	やむを得ない身体拘束が極力必要でない状況を作る為、利用者の気持ちの理解をより深めていく。	